

福島復興に向けた地元住民と国内外の専門家による ICRP/JAEA ダイアログミーティングの総括

Summary of the Dialogue Meeting between Local Residents and Experts

For Rehabilitation of Fukushima by ICRP and JAEA

*佐藤 和之¹, 遠藤 佑哉¹, 前田 剛¹, 植頭 康裕¹,

Jacques Lochard², Christopher Clement², 藤田 博喜², 安東 量子³

¹日本原子力研究開発機構, ²国際放射線防護委員会, ³福島ダイアログ

日本原子力研究開発機構(以下、「JAEA」)は、福島 の環境回復及び東京電力福島第一原子力発電所(以下、「1F」)の廃止措置に係る研究開発を行ってきた。JAEA は、地元住民とのコミュニケーションを通じてニーズの把握と研究の方向性を確認することを目的に、国際放射線防護委員会(以下、「ICRP」)と共同で3回のダイアログミーティングを開催した。

2019年12月のダイアログミーティングを中心に、過去のミーティングから学んだ内容について報告する。

キーワード: ダイアログミーティング, 復興, 継承, 福島第一原子力発電所事故

1. 緒言

JAEA は、1F 事故を受け、事故直後から福島 の環境回復及び 1F の廃止措置に係る研究開発を行ってきた。JAEA として、地元住民や企業等に放射線及び健康被害に係る科学的データを提供し、疑問や課題解決、放射線についての理解促進の助けとなるため、ICRP と共同で 2018 年 12 月、2019 年 8 月、12 月の計 3 回のダイアログミーティングを開催した。

なお、本ミーティングを実施するに当たり福島ダイアログに運営協力をお願いした。

2. 取り組み

本ミーティングは、復興している地域や被災現場等見学、専門機関や地元の企業、地元住民等のこれまでの経験や取り組みに関する講演、様々な立場の方による意見交換会で構成されている。

講演では、地元住民等から 1F 事故後の状況や取り組みについての報告や専門機関による講演が行われた。

意見交換会では、実施回ごとに異なるテーマで様々な立場の参加者が意見を発表した。2019 年 12 月に実施された際は、テーマ「福島 の、ダイアログの経験はどのように活かされたか?この先なにを望むか?」をもとに、11 人の参加者がそれぞれ意見を発表した。

3. 結果・考察

講演では、様々な立場の方による福島復興への取り組みや考えについて共有した。JAEA からは、専門機関としての科学的知見に基づく講演や次の世代への教育についての報告を行った。

2019 年 12 月のミーティングでの意見交換会では、これまで行ってきたダイアログでの経験がどのように活かされ、この先何を望むかについて意見が交わされ、様々な意見が挙げられた。共通の意見として、職業や年齢、国等を越えて経験を共有し、次の世代へも継承していくことが重要であるということが挙げられた。

本ミーティングにより、参加者がこれまでの活動を振り返り、広く経験を共有する機会が得られた。今後、それぞれが活動し、経験を共有していくことが重要である。JAEA としては、今回のダイアログミーティングをもって ICRP との共催を終了とするが、今後は研究機関として研究成果の情報発信を続け、放射線による健康影響、食品の安全性等の理解活動を続けていく。

*Kazuyuki Sato¹, Yuya Endo¹, Tsuyoshi Maeda¹, Yasuhiro Uezu¹, Jacques Lochard², Christopher Clement², Hiroki Fujita², Ryoko Ando³

¹Japan Atomic Energy Agency, ²International Commission on Radiological Protection, ³Fukushima Dialogue